



学習指導要領の届け方を探る

～教師が「学びの地図」を編む力を引き出すための指導主事の役割とは～

学習指導要領改訂にあたって行われる「周知」について、指導主事自身が改めて内省する。次期学習指導要領を、どんな届け方をすれば、教師が自分の授業の「地図」として活用できるかを考える場です。

開催概要

日時： 2026年11月22日（日）10時から16時半

会場： 岡山大学

対象： 研修に携わる指導主事等（本庁・事務所・センター）60名

事前課題： 本年度、自分が実施した研修についてのリフレクション

プログラム

【午前の部】10：00－12：00

自身の研修について内省

- グループ対話
（ファシリテーター：帝京大学 町支准教授、岡山大学 江尻准教授）
今年度、自身が行った研修のリフレクションを持ち寄り、語り合います。

「参加者の何を見て、
自分がどう考えたか」

4人グループで物語を語り合う中で、よりよい教師の学びをつくるための「指導主事の視点」を探ります。

【午後の部】13：00－16：30

インプット・課題把握・研修設計

- 3つの視点からの話題提供
 - ・ 学習指導要領（文部科学省 武藤課長）
 - ・ 認知科学（岡山大学 岡崎准教授）
 - ・ 指導主事経験及び教師教育（岡山大学 江尻准教授）
- クロストーク「学習指導要領の届け方の課題は？」
 - ・ 三者による鼎談（ファシリテーター：NITS 島谷審議役）
- メインワーク「私たちの届け方」
 - ・ 先生方が、学習指導要領を授業の「地図」として活用できることにつながる届け方（研修プラン）をグループで構想します。

- 当日が充実するように、8～11月に月1回程度のオンライン勉強会を行います（参加推奨）
- 2次案内やオンライン勉強会等の情報を希望する方は、まずこちらに登録をお願いします。

<https://forms.gle/xPm4CF8mvTVigMZw>

